

句集 菊揃へ

邑橋節夫

年
新
た
固
き
契
り
の
夫
婦
岩

獅
子
頭
は
づ
せ
ば
若
き
貌
の
笑
み

休
め
た
る
翼
の
や
う
に
霞
む
山

た
ゆ
た
ひ
し
み
ど
り
の
潮
春
兆
す

もの芽を尋ぬるわれの鳥に似て

逡巡の幾度ありて露の味噌

茅
葺
の
涼
し
き
土
間
や
大
時
計

海
鳴
り
に
似
て
一
山
の
青
嵐

せせらぎの調べのまろき夕河鹿

味噌の香の漂ふ里や濃紫陽花

短夜や瀬戸の島影浮きあがる

青田風童のこゑをのせてくる

はくれんの浄土となりし静寂かな

空のいろ日ごと重ねて花すみれ

はれやかな児等の歌ごゑ花つつじ

海見ゆる詩の小径や梨の花

白龍の波駆けてくる立夏かな

青柳のひととき妻をつつみたり

美人画の鼓鳴り出す冬うらら

よきことの兆しとならむ鷹柱

冬庭を抜けて館の江戸凶かな

鶏啼けり旅立つ朝の霜柱

雪吊りの苑に澄みたる心気かな

枯野往く嶺のひかりをしるべとし

古文書の学びの旧家今年竹

雨意兆す庭に黄色の薔薇ひとつ

病棟の午後
の窓辺や薄紅葉

無心なるすがた
とどむる敗荷

晩秋の館に入れば木の玩具

楚々として映ゆる山茶花ガラシヤ墓碑

漁りし舟の白さや夏の潮

浜茶屋の建ちて夏潮躍りくる

夕
焼
に
祈
る
が
ご
と
き
孤
舟
か
な

北
西
の
風
に
晒
せ
り
烏
賊
す
だ
れ

けものめく白波たつや夏の果

相応しき名に香りたり菊揃へ

積もり
みる
落葉に
禅の
聲
聴けり

無心なる
樹下に
菩提の
一葉かな

木の芽風知足を説きし僧のこゑ

一 跳びのぼつたの描きし円き宙

少欲のこころの軽し青き踏む

柏手のそろひし二人年明くる

妻の胸に飾りてみたき鼓草

白馬にて駆けたき夢や草青む

打
水
に
も
の
言
ふ
瞳
石
蛙

手
に
受
け
し
詩
の
雫
や
春
北
斗

たましひを連れ去るやうに奔る野火

天界にあそびしこち糸櫻

黒竹の葉ずれ書院に秋気満つ

春寒の旅や嵯峨野の和紙細工

ム
ツ
ク
リ
の
調
べ
湖
畔
に
夏
の
旅

城
址
来
て
吾
も
一
本
の
冬
木
立

谿
空
に
孤
高
の
彩
を
橡
の
花

原
点
に
還
れ
と
野
火
の
奔
り
け
り

著者略歴

邑橋節夫（むらはし・せつお）

昭和10年2月 兵庫県生まれ

平成7年3月 教職を退職

平成8年9月 「遠嶺」入会

小澤克己に師事

平成11年1月 「遠嶺」同人 陽嶺集Ⅱ

平成12年8月 「遠嶺」同人 陽嶺集Ⅰ

平成16年1月 「遠嶺」同人 高嶺集

現 在 「遠嶺」同人 高嶺集 ●

句集 きくぞろ 菊揃へ 〈本阿弥現代俳句シリーズX〉

2006年10月20日 初版

定 価：本体2800円（税別）

著 者 邑橋 節夫

発行者 本阿弥秀雄

発行所 ほんあみ 本阿弥書店

東京都千代田区猿楽町2-1-8 三恵ビル 〒101-0064

電話 03(3294)7068（代） 振替 00100-5-164430

印 刷 熊谷印刷

製 本 関山製本社

（2081）

©Setuo Murahashi 2006

ISBN4-7768-0304-6